



環境大臣賞 受賞

## 栃木県立矢坂高等学校

農業技術部畜産班

未来へつながる放牧牛 ～ビーフダイバーシティと避難放牧～

環境再生保全機構公式動画チャンネル  
第9回全国ユース環境活動発表大会発表の  
動画は  
こちら

3年生 齋藤 虹々七さん

3年生 薄井 詩桜さん

## 高校生が取り組む環境活動は、地域や行政を巻き込む力があります！

## Q 大会に応募したきっかけはなんですか？

先生からの紹介です。放牧場がある農業高校として、3年ほど前から「持続可能な畜産」をテーマに研究活動に取り組み、活動成果も出始めてきていたので、チャレンジしてみようと思いました。

## Q 大会ではどんなテーマで発表したのですか？

牛肉の新たな魅力、素晴らしさを発信し、多様な牛肉を地元で消費できる仕組みを作る「ビーフダイバーシティ」を広げていくための活動や、持続可能な畜産の根幹である「家畜防災・減災」について発表しました。

## Q 大会に参加してみた感想はいかがですか？

他校の発表は研究の分野もさまざまで、とても勉強になります。特に、どの学校もプレゼンテーションの話し方がとても上手で、ぜひ参考にしたいと思いました。この大会を経験したことで、他の大会に参加するときも、自信を持って話せるようになったと思います。

何より、全国各地の仲間たちと情報交換ができたことで、視野が広がりました！

## Q 応募を検討されている高校生の皆さんへ、メッセージをお願いします。

地方大会、全国大会ともにたくさんの学校と交流することができます。活動のアドバイスをもらったり、情報共有したことで、多くの知識を得ることができました。この出会いはきっと、今後の研究活動を後押ししてくれるはずです！

高校生が取り組む環境活動は、地域や行政をも巻き込む力があり、さまざまな方とつながることができます。同じ目標を持つ仲間たちとの出会いは新たな気づきを与えてくれますよ！



学校の敷地内で、およそ40頭の牛が飼育されている

## 栃木県立矢坂高等学校の主な活動テーマ

- 自家製飼料（飼料国産率向上）に関する研究
- 放牧牛の流通・販売に関する研究
- 家畜動物の防災・減災に関する研究



学校周辺が土砂災害警戒区域となっているため、地震と合わせて牛の避難想定をしている



研究している自家製飼料

## 一つの目標として設定するにはベストな大会です。

大会に出場している高校生は意識が高く、コミュニケーション能力に優れた生徒が多いので、いろいろな研究内容に触れるのももちろんですが、同じ目標を持つ同世代と関われる良いチャンスだと思いました。

農業高校はどこもそうですが、研究活動は必ずPDCAサイクルで行います。ある程度成果が出た段階で、まとめ発表を行います。3年生が取り組む活動は夏休みや2学期にピークを迎えます。この大会は、12月に地方大会、2月に全国大会があるので、自分たちの活動を発表に盛り込むことができ、一つのゴールとして目標設定をするには、ベストタイミングなのです。

せっかく専門分野を学んでいる生徒たちなので、きちんと目標設定をして、それを目指して活動し、成果が得られればと思います。卒業後、農業や畜産の分野に進んだ生徒もいれば一般企業に就職した生徒もいます。環境活動に触れる機会が得られたことは、きっと成長の糧となり、また賢い消費者になれるだろうと思うので、素晴らしい機会をいただいたと思っています。

全国大会では生徒たちだけではなく、私自身も他校の先生とディスカッションをする機会や、ユース世代のOBの方たちの話を聞くことができ、教員としても良い学びの場になりました。たくさんの刺激を受けて変容する生徒も見られますし、我々にとってもすごく価値がある機会だと思います。



顧問 嵯峨先生